

2025 年 8 月 10 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒222 番 (SK 姉)

『日々わが心の』

聖書⇒ルカによる福音書 19 章 1~10 節 (MM 姉)

『イエスはエリコに入り、町を通っておられた。そこにザアカイという人がいた。この人は徴税人の頭で、金持ちであった。イエスがどんな人か見ようとしたが、背が低かったので、群衆に遮られて見るができなかった。それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。そこを通り過ぎようとしておられたからである。イエスはその場所に来ると、上を見上げて言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。これを見た人たちは皆つぶやいた。「あの人は罪深い男のところに行って宿をとった。」しかし、ザアカイは立ち上がって、主に言った。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」イエスは言われた。「今日、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。』

礼拝讃美歌⇒7 番 (旧 3 番)

『御神は尋ねぬ』

聖書⇒詩編 119 章 71~72, 14 節 (SK 兄)

『卑しめられたのはわたしのために良いことでした。

わたしはあなたの掟を学ぶようになりました。

あなたの口から出る律法はわたしにとって／

幾千の金銀にまさる恵みです。

あなたの御言葉は、わたしの道の光／

わたしの歩みを照らす灯。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 14 章 26 節

『しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを

教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒169 番 (旧 53 番) (KH 姉)

『妙なる救いの』

聖書⇒詩編 56 章 9 節 (ES 姉)

『あなたはわたしの嘆きを数えられたはずです。

あなたの記録に／

それが載っているではありませんか。

あなたの革袋にわたしの涙を蓄えてください。』

聖書⇒ヘブライ人への手紙 5 章 7~8 節

『キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ、その恐れ敬う態度のゆえに聞き入れられました。キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。』

(祈り)

《パン裂き》

聖書⇒マルコによる福音書 15 章 36~38 節 (KH 兄)

『ある者が走り寄り、海綿に酸いぶどう酒を含ませて葦の棒に付け、「待て、エリヤが彼を降ろしに来るかどうか、見ていよう」と言いながら、イエスに飲ませようとした。しかし、イエスは大声を出して息を引き取られた。すると、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けた。』

聖書⇒ヘブライ人への手紙 5 章 7~8 節

『以上のものがこのように設けられると、祭司たちは礼拝を行うために、いつも第一の幕屋に入ります。しかし、第二の幕屋には年に一度、大祭司だけが入りますが、自分自身のためと民の過失のために献げる血を、必ず携えて行きます。このことによって聖霊は、第一の幕屋がなお存続しているかぎり、聖所への道はまだ開かれていないことを示しておられます。』

(式)

礼拝讃美歌⇒156 番

『幕は裂けたれば』

《建徳》

聖書⇒マルコによる福音書 5 章 16~20 節 (SK 兄)

『成り行きを見ていた人たちは、悪霊に取りつかれた人の身に起こったことと豚のことを人々に語った。そこで、人々はイエスにその地方から出て行ってもらいたいと言いだした。イエスが舟に乗られると、悪霊に取りつかれていた人が、一緒に行きたいと願った。イエスはそれを許さないで、こう言われた。「自分の家に帰りなさい。そして身内の人に、主があなたを憐れみ、あなたにしてくださったことをことごとく知らせなさい。」その人は立ち去り、イエスが自分にしてくださったことをことごとくデカポリス地方に言い広め始めた。人々は皆驚いた。』

聖書⇒マタイによる福音書 4 章 23、25 節

『イエスはガリラヤ中を回って、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされた。』

こうして、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤ、ヨルダン川の向こう側から、大勢の群衆が来てイエスに従った。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 8 章 18~26 節 (KH 兄)

『現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないと思います。被造物は、神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいます。被造物は虚無に服していますが、それは、自分の意志によるものではなく、服従させた方の意志によるものであり、同時に希望も持っています。つまり、被造物も、いつか滅びへの隷属から解放されて、神の子供たちの栄光に輝く自由にあずかれるからです。被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。被造物だけでなく、“霊”の初穂をいただいているわたしたちも、神の子とされること、つまり、体の贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます。わたしたちは、このような希望によって救われているのです。見えるものに対する希望は希望ではありません。現に見ているものをだれがなお望むでしょうか。わたしたちは、目に見えないものを望んでいるなら、忍耐して待ち望むのです。同様に、“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもつ

て執り成してくださるからです。』

礼拝讃美歌⇒304 番（KH 兄）

『わが身の望みは』

《建徳要旨》